

研 究 分 野	増養殖技術	部名	ほたて貝部
研 究 課 題 名	新耳吊り養殖技術開発試験		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 5 ～ H. 1 7		
担 当	小坂 善信		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

これまでの養殖方法を見直し、生産効率が高く、経費の削減を図るための新しい耳吊り養殖方法を開発する。

〈試験研究方法〉

陸奥湾内 6 地点（東湾 3 地点、西湾 3 地点）で他の養殖法（丸籠、パールネット、アゲピン耳吊り）で行ったホタテガイと新しく考案した二枚貝用耳吊り用留金を用いて養殖したホタテガイの成長（殻長、全重量、軟体部重量）等を比較した。試験は平成 15 年 3 月～4 月に開始し、平成 16 年 1 月～3 月に終了した。さらに、新耳吊り用の留金を数例設計し、工作機器メーカーに依頼して、最も適している留金を検討した。

〈結果の概要・要約〉

従来のホタテガイ養殖方法と新しい留金の耳吊り養殖を比較したところ、新しい留金の耳吊り養殖のほうが他の養殖方法よりも 1～2 割程度成長が早く、生存率も良いことがわかった。さらに、新しい留金は何回でも使用できることが判った。しかし、使用方法及び養殖水深によっては留金から貝が脱落するものも見られたので、脱落しないように留金の形状を一部改良した。

平成 14 年 11 月 28 日に意匠登録出願し、平成 15 年 8 月 1 日に意匠登録された。特許は平成 14 年 9 月 17 日に出願したが、まだ登録はされていない。

〈主要成果の具体的なデータ〉

久栗坂実験漁場での試験結果を示した。

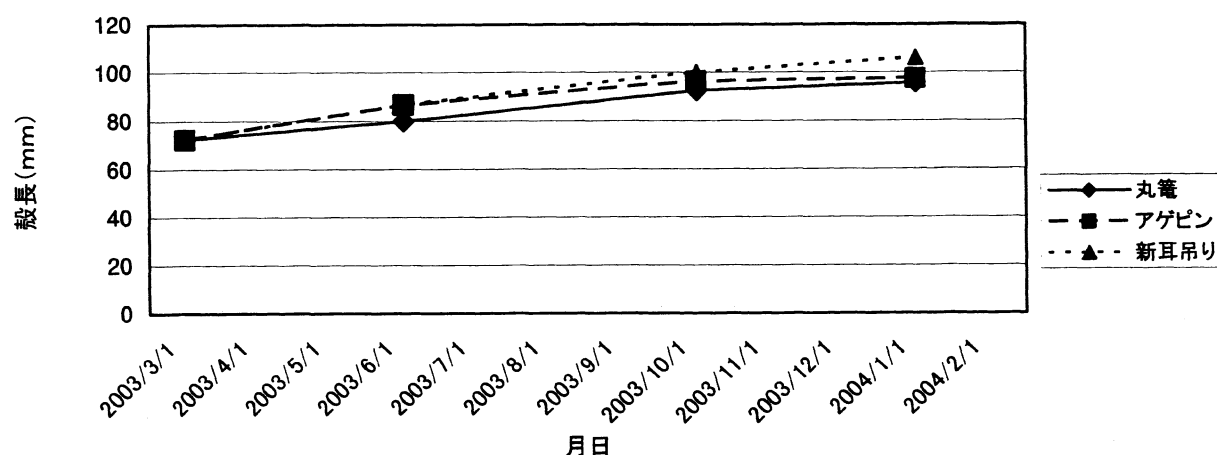


図1 各養殖方法での成長の比較(殻長)

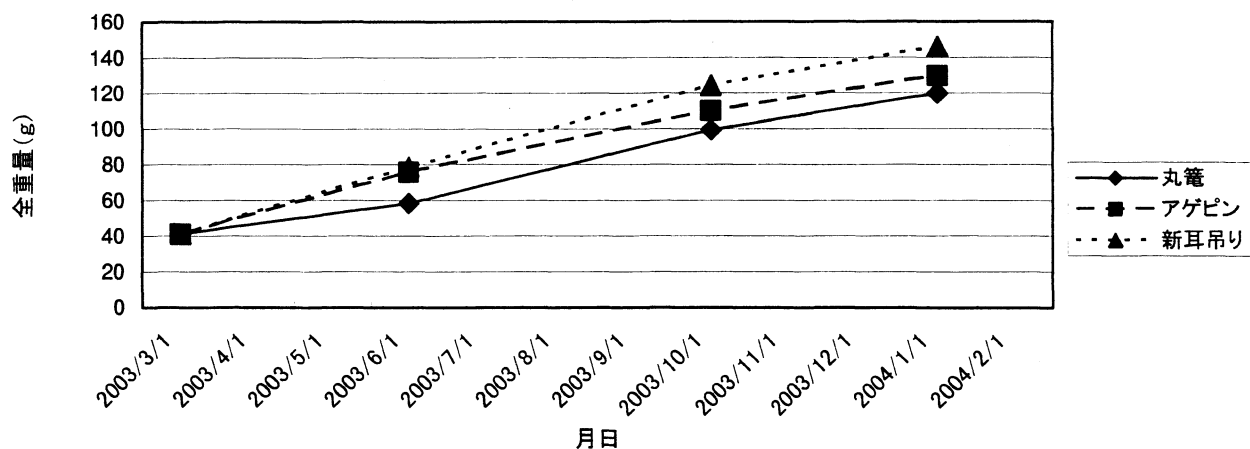


図2 各養殖方法での成長比較(全重量)

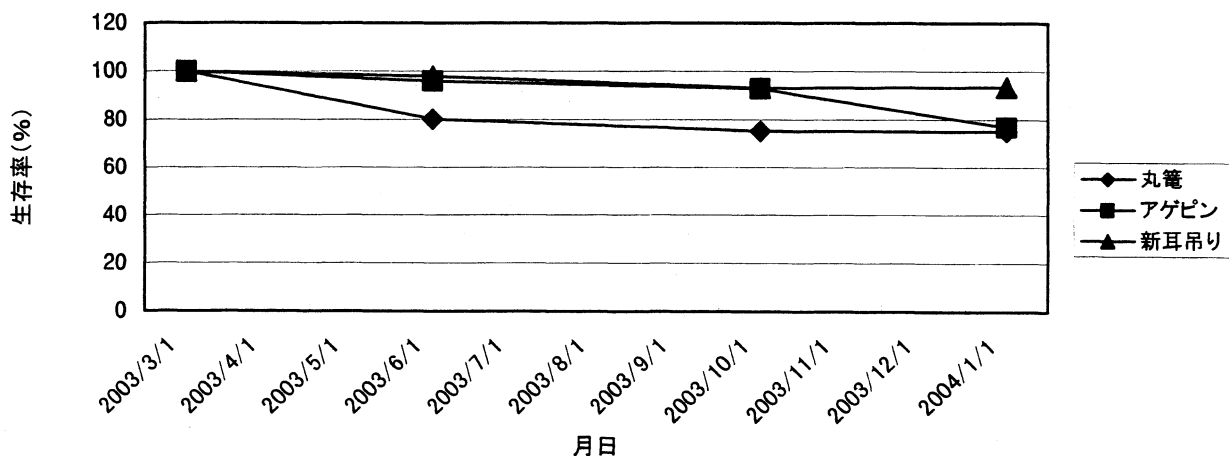


図3 各養殖方法での生存率の比較

〈今後の問題点〉

これまでの養殖方法よりも成長が良いことが判ったが、この留金を大量生産するときを考慮に入れて、留金の形状の改良および材質についても検討する。さらに漁業者に受け入れられるように、留金の使用方法（ロープへの脱却、出荷方法）、作業性、効率性についても検討する必要がある。

また、多種類の大きさの貝に対応できるように、留金の改良を行う。

〈次年度の具体的計画〉

作業性を向上させるために、留金を最初からロープに付けておく方法を検討する。

〈結果の発表・活用状況等〉

なし